

Web Speech APIを利用した 情報保障WEBアプリ

利用の手引き

画面の構成

上段

ここに音声認識後の文字が入力されていきます。修正ができます。

下段

ここは音声認識中の文字が表示されます。

音声認識
ON

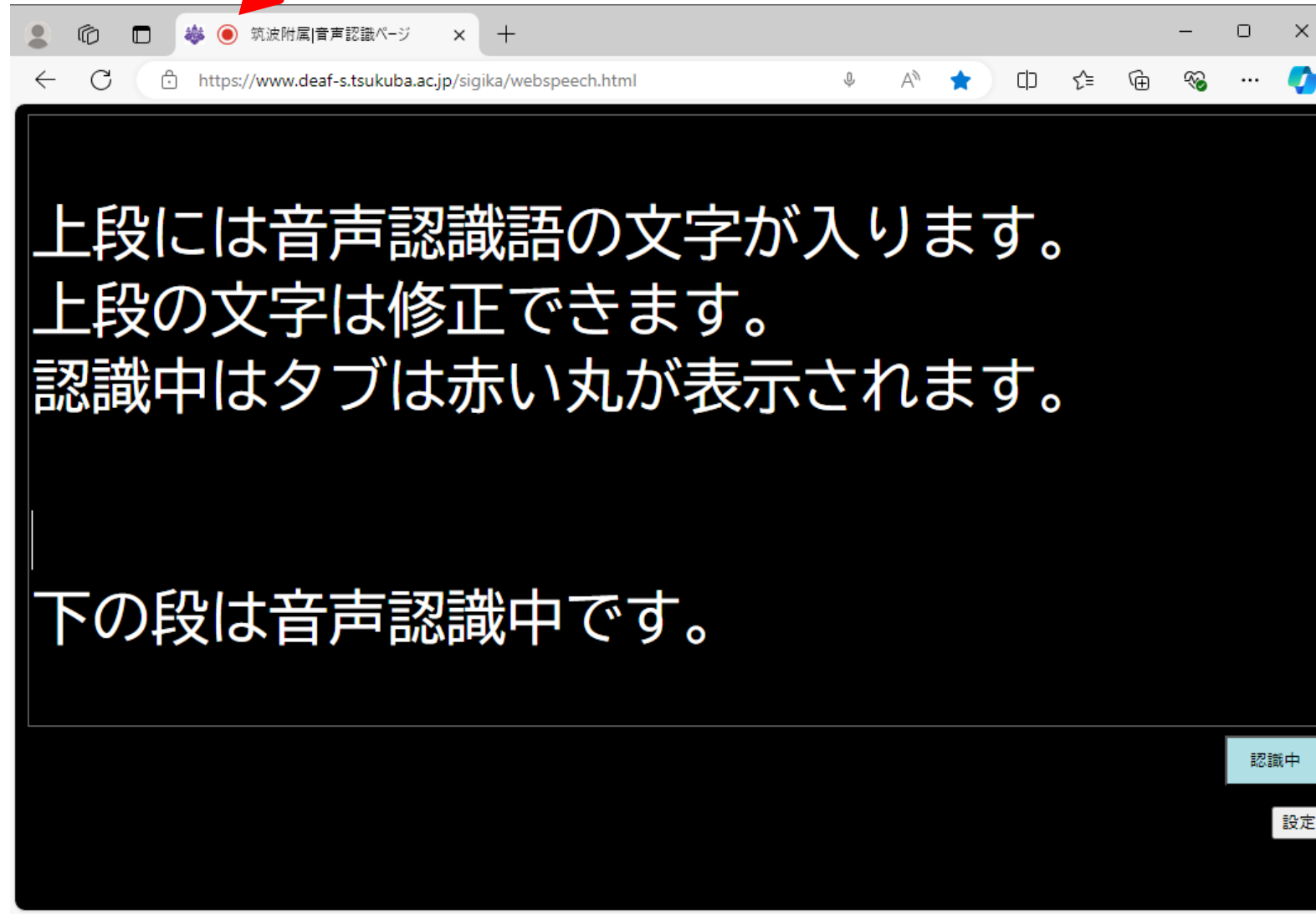
設定

音声認識
ON

設定

画面の構成

音声認識中はタブに赤い丸が表示される



基本設定

—[設定]ボタンを押す

音声認識言語 日本語 ▼

←言語設定

文字サイズ 小さく 大きく

←文字サイズ設定

入力結果を保存

←上段の文字をテキスト保存

置換語句登録機能

- 誤変換の修正パターンを登録すると、自動で修正される機能
例：「皇后」→「咬合」、 「高校」→「咬合」、 [東西]→[陶材]など

置換語句

→

登録



入力済も置換

- 本アプリは、無料の一般の音声認識エンジンを利用しているので、辞書登録はできず、特に専門用語は出にくいので、本機能を追加した
- 登録した語句は、下段から上段に移るときに自動で修正される

置換語句登録機能

置換語句登録ファイルの保存

←置換語句登録したリストをファイルを保存

置換語句一括登録 ファイルの選択

←次回以降、置換語句登録ファイルを選択すると、一括登録できる

※置換語句登録は、ブラウザを更新・再起動すると解除されますので、置換語句登録ファイルとして保存しておきましょう。

※置換語句登録ファイルは編集可能です。文字コードはUTF-8です。

対応ブラウザ

- Windows PC
 - Google Chrome  または Microsoft Edge 
 - ChromeとEdgeでは音声認識エンジンが異なり、音声認識結果には違いが出てくる
 - どちらも語彙は豊富で認識精度は良い
 - Edgeでは「。」や「?」が入るが、Chromeは入らない
 - 言い淀みや複数人の声をChromeはカットする傾向があるが、Edgeは文字化する傾向がある
 - 音声認識が確定するまでの文章がChromeのほうが長くなる 경우가多く、その場合に下段の表示が不安定になる
- [Chromeはこちらがおすすめ（音声認識中の行数が固定）](#)

対応ブラウザ

- ChromeもEdgeも音声認識APIは日々学習し、進化しており、前スライドに挙げた特徴も変化するかもしれないので、本アプリを試す際には、1台のPCでChromeとEdgeの両方を開き、同時に音声認識をさせて、結果を比較して、どちらで利用するか判断してほしい
- 2024年7月現在、音声認識が確定するまでの文章が短いEdgeのほうが、表示が安定していて、修正にとりかかりやすいので、筆者はEdgeを選択している

IMEに専門用語を登録しておく

- 音声認識精度は向上しても、本アプリの音声認識エンジンは専門分野に特化したものではないので、専門用語は出にくく、似た音の語句に誤変換されることが多く、その場合、修正が必要となる
- 修正の際に、専門用語にスムーズに変換できるかどうかで、労力が大きく変わってくる
- マイク入力環境が良ければ、同音異義語の漢字変換が修正の多くを占めることとなる
- 同音異義語の場合、その用語がIMEに登録してあれば、変換キーのみで修正できるので、労力は一からタイピングするよりもかなり少なくできる

入力履歴も影響する

- 普段から専門用語を使用しているPCであれば、入力履歴により、専門用語が出やすい環境になっているので、そのようなPCを使用することで、労力を削減できる